

ワーク概要 途上国の女の子がたどる2つの人生を比較しながら、女性の人生の選択における教育の大切さについて学び、私たちにできる支援について考える。また、世界の教育支援の状況にも目を向けるきっかけとする。

ねらい **ステップ1**では、「ジーナさんの2つの人生」(教育を受けなかった場合と受けた場合)を比較し、途上国におけるジェンダー不平等の問題、その解決のカギが教育にあることを学ぶ。途上国で女の子に生まれ、生きていくことの大変さを学び、ジェンダーギャップ(乳幼児死亡率、就学率、早すぎる結婚、家庭内での発言権など)について理解を深める。
ステップ2・3では、女子教育を進めるための具体的な支援プログラムについて学ぶ。必要な支援や寄付金の使い方への関心を高め、効果的な支援のあり方について理解を深める。

教材 プラン・インターナショナルが支援した実在の女の子をモデルとして、彼女が来日した時の講演録をもとに作成した「ジーナさんの手紙」、「ジーナさんの2つの人生」(人生Aカードと人生Bカード)、及び、プラン・インターナショナルが途上国で実施しているプログラムをもとに作成した支援プログラムカードを教材として使用。

準備するもの

- 「ジーナさんの手紙」: 人数分
- 「人生Aカード」、「人生Bカード」(人生Aカードの裏面に泣き顔の絵、人生Bカードの裏面に笑顔の絵がくるように両面印刷して、人生Aカード・Bカードの線に沿ってそれぞれ切り離して8枚のカードにし、人生AとBそれぞれまとめておく): 各グループに1セットずつ
- 「支援プログラムカード」: 人数分
- ワークシート「ジーナさんの2つの人生」: 人数分
- ワークシート「4つの支援プログラム」: 人数分
- 動画視聴用機材(パソコン、プロジェクター、スクリーンなど)
- 模造紙、付箋

時間	発問・学習内容	ポイント
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「女性だから困ること」をいくつか考える。日本にもジェンダー不平等はあるが、途上国ではどうだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本でジェンダー不平等だと思ふことを数人に聞く。 ● 生徒自身の体験や、親など大人を見て思ふこと、またはニュースから得た知識などを聞く。
展開① (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ● ここに、途上国から1枚の手紙が届いた。 ● 「ジーナさんの手紙」を読む。 ● 途上国の女の子には、ジーナさんのように教育を受けた人生もあるが、異なる人生もある。 ● 「人生A」と「人生B」のカードを、絵を表側にして並べる。泣き顔の絵と笑顔の絵が完成するように並べる。 ● 「人生A」のカードを上から順番に裏返して、12歳から25歳までの人生を読む。次に、「人生B」のカードを順番に裏返して、12歳から25歳までの人生を読む。 ● 各自、ワークシート「ジーナさんの2つの人生」に記入する。 ● 自分が書いたものをグループ内で発表し、その意見を付箋に書いて、設問別に模造紙に貼る。グループで、「人生A」と「人生B」の違いとその理由について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人生A」、「人生B」の絵の裏側が上から12歳→25歳の順になる。 ● ファシリテーター主導でタイミングを合わせて全員で読んでいくとわかりやすい。
展開② (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ● グループで出た意見を全体で共有し、2つの人生に違いが生じた理由を皆で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2つの人生の違いが「教育」にあることを学ぶ。 ● 実際には「人生A」を生活している女の子が途上国では多いことを知る。

ステップ
2

女子教育支援のために必要なプログラムを考える。

めやすの時間

30分

時間	発問・学習内容	ポイント
展開① (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 途上国の女の子を支援するには、どのような方法があるだろうか？ ● 寄付金が100万円あると仮定し、必要な支援について考える。 ● ワークシート「4つの支援プログラム」（「奨学金」、「給食」、「制服・学用品」、「母親の職業訓練」）を読み、自分が寄付したいプログラムの優先順位とその理由を考えて、ワークシートに記入する。 ● グループで各支援プログラムへの金額の配分を話し合い、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単純に、寄付金を4つの支援プログラムに4分の1ずつ配分するのではなく、どの支援を重視するのがよいかを考えさせる。 ● 時間に余裕があれば、100万円ではなく、途上国の女子教育支援のため、生徒が実際に出したい寄付額を紙に書いて集め、寄付総額をどのように配分するかを話し合ってもよい。
展開② (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ● グループで出た意見を全体で共有する。 ● 4つの支援はプランが実際に行っているものであることを、ファシリテーターが解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれのプログラムのメリット・デメリット、特徴、効果などを理解し考えることが重要なので、正解はないことを伝える。 ● NGOや国際機関は様々な支援を複合的に行っていることを理解する。 ● 時間があれば、全グループのA～Dの平均額を出してクラスで共有してもよい。

ステップ
3

動画を視聴して
女子教育支援プログラムの大切さについて考える。

めやすの時間

10分

時間	発問・学習内容	ポイント
展開① (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 女の子が教育を受けることのメリットをファシリテーターが説明する。 ● マララさんの国連演説文を世界中の女の子が朗読し、「世界の問題を解決するのは教育である」と女子教育の必要性を訴えている映像を視聴する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動画『マララさんと「もう一人のマララたち」の声』（プラン・インターナショナル制作、3分21秒） https://www.youtube.com/watch?v=xVUyGS6qqIw (最終アクセス 2020年6月12日)

途上国が貧困という問題から脱却するためには、女の子への支援が重要な鍵となる。女の子が教育を受けることにより、家族、地域、そして国の活性化につながる。また、知識と教養を備えた女の子が大人になることで、次世代にまで好影響を及ぼすと考えられるからである。女の子を支援することは、女の子が将来得る収入の増加、5歳未満児の死亡率の減少、地域の農作物収穫高の向上や妊産婦死亡率の減少など、社会全体を前向きに変える近道でもある。

しかし、途上国の女の子は、生まれたときから「女の子だから」というだけで差別され、危険にさらされているという現状がある。ステップ1の「ジーナさんの手紙」では、家畜の世話や家事労働などを強いられていること、さらに10代で結婚させられ、出産によって身体をこわしてしまうことがあげられている。女の子が教育を受ける機会を奪われる主な理由として、家事労働、早すぎる結婚・出産、女の子の教育に対する社会や家族の理解不足がある。また、教育を受けていないために自分の意思で人生における選択をすることができず、「人生A」のように家庭や地域で不利な立場の人生を送ることになってしまう。

途上国では8人に1人の女の子が15歳未満で結婚させられ、3人に1人は18歳未満で出産する(出典:ユニセフ 世界子供白書2017)。早すぎる結婚の背景には、年齢とともに高額になる結婚持参金などの古くからの慣習や、宗教に関する考え方が存在する。教育を十分に受けずに出産し母親になることが、子どもの生存率、家計の収入にも影響し、貧困の連鎖を生み、地域や国の発展を妨げる要因となっている。

しかし、支援によって教育を受ける機会を得られた場合、「人生A」ではなく「人生B」を歩むことができる。女の子が教育を受けた場合の社会的な影響については、以下のデータがある(出典:公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)。

<p>平均年収が 11%向上する</p> <p>女の子が1年長く初等教育を受けると、その子が将来得る収入が約11%増加する。</p>	<p>300万人の命が 救える</p> <p>すべての女性が中等教育を修了すれば、5歳未満児の死亡率は約49%減り、1年でおよそ300万人の命を救える。</p>	<p>収穫高が 7.3%向上する</p> <p>マラウィでは、女性が教育を受け、男性と同じように農作業の決定に参加できた場合、収穫高が約7.3%向上する。</p>
---	---	--

ステップ2で紹介した支援プログラムの中には、若い母親への職業訓練があげられている。途上国では、15歳～24歳の女の子の3人に1人は読み書きができず、西部・中部アフリカにおいては、半数近くに上る。女の子が教育を受け、適正な職業に就き、スキルを身につけて収入を得ることで、自分の考えを発言し、自分の意思で選択することができるようになる。そして社会や次世代に大きな影響を及ぼす可能性がある。

わたしの名前はジーナです。パキスタンの小さな村で生まれました。

家族は、母と私と弟3人の5人です。父は私が幼いときに家を出ていきました。

私の母は、今まで1日も学校に行ったことがありません。

パキスタンでは、女の子を学校に行かせることは良くないことだと考えられています。

教育を受けると家畜の世話など家の仕事をしなくなり、

『自分で何でも決める権利』を主張すると考えられているからです。

パキスタンでは、女の子がとても早くに結婚させられます。

15歳にならないうちに結婚させられる女の子もいます。

女の子を早く結婚させると、親は生活が楽になります。

逆に、早く結婚しないと、村で悪いうわさを広められてしまうこともあります。

まが子どものうちには、自分よりもずっと年上の男の人と結婚させられるのです。

夫の言うことに反対はできないし、暴力をふるわれることもあります。

結婚すると、家族の世話や家の仕事をしなくては行けないので学校に行けなくなります。

まが身体が成長していないうちに子どもを産んで、身体をこわす女の子もいます。

私は幸運なことに、女の子の教育を支援する団体に出会って

学校に行くためのお金(奨学金)をもらい、中学、高校に行くことができました。

もし、結婚させられて学校にも行けなくなっていたら…？

私の人生はどうなっていたでしょうか、想像してみてください。



12歳

家の仕事があるし
お金がないので
なかなか学校へ通えない。

12歳

家の仕事や
弟たちの世話をして
母親を助ける。

15歳

母親がジーナさんの
結婚話を決める。

15歳

読み書きや計算が
十分にできないまま、
16歳で初めての子どもを産む。

20歳

生活は貧しいが、
働いて家計を助けることが
できない。

20歳

18歳で2人目の子どもを出産し、
続けて3人目の子どもをみごもる。
(*みごもる:妊娠する)

25歳

夫が、たまに暴力をふるうが、
教育を受けていないので
自信をもって夫に意見が言えない。

25歳

4人の子どもの母親になる。



12歳

女の子の教育を
支援する団体に出会い、
中学校へ毎日通っている。

12歳

文字の読み書きや
計算を勉強する。

15歳

支援団体から奨学金しょうがくきんをもらって
高校に進学する。

(*奨学金:学校へ行くためのお金)

15歳

母親が結婚話を
断わってくれる。

20歳

高校を卒業してから
町のショッピングセンターで
働いている。

20歳

コンピューターが使えるので
平均的な賃金ちんきんの
2倍の給料がもらえる。

25歳

好きな人と結婚をして
23歳で出産。仕事を1年間休んだ後、
同じ職場に復帰ふっきして働いている。

25歳

教育を受けたので、
夫や職場の上司とも
自信をもって話し合える。



プログラム
A

女の子に
奨学金をあげる



私たちのプログラムでは、家庭が貧しくて学校に行けない女の子に、奨学金（学校に行くためのお金）をあげます。女の子がきちんと学校に通えば、毎月の奨学金がもらえるので、お父さん・お母さんが女の子を学校に行かせやすくなります。女の子にあげた奨学金は、学校へ行くためのバス代や、文房具などの学用品のために使われることが多いですが、お金を少しずつ貯金して、中学校を卒業してから高校や専門学校に行くために使う女の子もいます。

かかるお金 女の子1人あたり月3000円



©Plan International

プログラム
B

学校で無料の
給食を出す



私たちのプログラムでは、特に貧しい地域の学校で、給食費を無料にします。親たちが「子どもを学校に行かせれば、無料で栄養たっぷりなごはんを食べさせてもらえる」と考えるので、女の子でも学校に行かせやすくなるのです。給食は、女の子だけではなく学校の生徒全員に無料で食べてもらいます。そうすることで、学校の子どもたちみんなが元気になります。

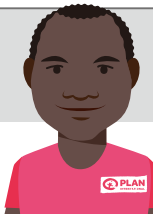
かかるお金 1校あたり1日3000円(100人分の給食)



©Plan International

プログラム
C

女の子に制服と
学用品をあげる



私たちのプログラムでは、家庭が貧しくて制服や学用品が買えない女の子に、1年に1回、制服、カバン、文房具などの学用品セットをあげます。「学校に行きたい」「勉強したい」という女の子たちのやる気を高めることができますし、親が女の子を学校に通わせるのに必要なお金が少なくて済みます。

かかるお金 女の子1人あたり年3000円



©Plan International

プログラム
D

若いお母さんに
職業訓練をする



私たちのプログラムでは、15歳～24歳までの若いお母さんたちを集めて、読み書きを教えたり、いろいろな仕事ができるように訓練をします。貧しい家では、お母さんたちが字が読めなかったり計算ができないことも多く、お金を稼ぐことができないのです。お母さんたちが手に職をつけてお金を稼げるようになれば、子どもたちも栄養のある食べ物たくさん食べられるし、学校にも通いやすくなります。

かかるお金 お母さん1人あたり3000円



©Plan International

「ジーナさんの2つの人生」ワークシート

名前

1 「人生A」と「人生B」はどこが大きちがいますか。

2 1の違いができた理由は何だと思えますか。

3 「ジーナさんの2つの人生」を学んで考えたことを書こう。

「4つの支援プログラム」ワークシート

名前

1 4つの支援プログラムに順位をつけよう

プログラム A	奨学金	位
理由		

プログラム B	給食	位
理由		

プログラム C	制服・学用品	位
理由		

プログラム D	母親の職業訓練	位
理由		

2 グループで決めた支援金額

プログラム A	円

プログラム B	円

プログラム C	円

プログラム D	円

理由
